

「敬老の日」に寄せて

敬老の日を迎えるにあたり、皆さまのご長寿を心からお慶び申し上げますとともに、松浦市民を代表してお祝いを申し上げます。

現在松浦市には、七十歳以上の方が約六千人いらっしゃいますが、そのお一人おひとり、激動の時代において多くの困難を乗り越えられ、家族のため、社会のために歩んでこられました。現在の松浦市が、今日の発展を遂げられたのも、皆さま方の長年にわたる努力のためであり、心からの感謝と敬意を表します。

私は、これからの社会は、今までのように単に「長寿」を目指すのではなく、さらに一歩進めて「長寿を喜ぶことのできる社会」を目標としなければならないと思っております。

この「長寿を喜ぶことのできる社会」とは、高齢者が健康で積極的に社会活動に参加し貢献できる社会、高齢者とその家族が、地域の中において安心して生活できる社会、高齢者のみならず、後の世代にとっても長寿が喜べるものと感ぜられ、社会全体としても活力が十分維持されている社会、であります。

このような考え方に立ち、私は、総合計画に掲げる「豊かで明るい高齢社会を支えるまちづくりの推進」に向け、一層の努力を重ねてまいります所存であります。

どうか皆さまにおかれましては、いつまでも御壮健で、松浦市の発展にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。お祝いのごことばといたします。



平成22年9月

松浦市長 友 広 郁 洋

わたしたちの郷土

— 56 卷 —

中世の松浦 (22) 鷹島海底遺跡

鷹島南岸の海底からは、これまで多くの陶磁器とともに銅造如来坐像（昭和49年県指定有形文化財）も引き揚げられています。この仏像は原免の市杵島神社の境内に建てられたお堂に安置されています。仏像の像高は77^{cm}、高麗時代前期の作品ですが対馬・壱岐に見られる高麗仏とは少し作風の趣が異なり、より中国の影響に近いのではないかと考えられています。日本にもたらされているこの種の銅造のうちでも優品に数えられています。

江戸時代の終わり頃、船唐津の猟師が、原の海岸に「アオギタ（魚の群れで海の色が変わること）」が生じたという夢を見て、翌朝早速そのあたりに網を下ろしたら、この仏像がかかってきたそうです。ある時、泥棒がこの仏像を盗み去ろうとしたところ、この仏像が「原の釈迦は原に帰る」と叫んだので、泥棒は驚き、仏像の頭や額にはめ込んであった黄金や宝石を抜き取って逃げ去ったと伝えられています。

この仏像は、元軍が船に安置して礼拝していたものと考えられ、暴風雨により船とともに海底に沈んだと伝えられています。鷹島ではこの仏像を「原の釈迦像」と呼んでいます。



▶ 「長崎県の文化財」から転載

